

# 【各学年のグランドデザイン】

## 個別支援学級

何ができるようになるか  
○各教科等で育成する資質・能力

何が身に付いたか  
○各教科等の学習評価

知的級: あらゆる場面を通して、言葉や数感覚を獲得し、自分自身のことを伝える手段や、生活していく中で必要とされる力を身に付けていく。

情緒級: 国語・算数・生活・理科・社会は基本的には学習指導要領に沿った学習を行いながら、個々の課題に応じた支援をしていく。

知的級: 教師の声かけを受けて、身支度をするなど基本的な生活習慣が身に付いてきている。個別学習では、能力別にグループを組むことで、それぞれに応じた課題や活動を設定し、学び合いの機会が増え、学習を進めていくことができた。当該学年の学習をする人や平仮名をなぞる学習をする人など様々な課題があるが、集中して学習に臨む児童が増えてきた。

情緒級: 各教科のカリキュラムに沿った学習を行うことができた。児童の実態に応じて個々の課題をその都度見取り、次時の学習に生かされるよう授業計画を練った。その結果、学習への意欲が高まり自分から課題を克服しようとする姿が見られるようになった。個別級の学習だけでなく、交流の教科でも日頃の学習を生かし、主体的に取り組むことによって自分の力で課題を克服することができるようになってきた。

子ども達の発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする子どもへの指導

**子ども達の実態**

知的級: 当該学年の学習をしている児童は少ないため、下学年や特別支援学校相当の学習に取り組み、個に応じた学習を進めている。

情緒級: 当該学年の学習をしている児童の他に下学年の学習を進めている児童もいる。既習学習を常に振り返り学力の定着を進めている。

**目指す子ども達の姿**

知的級: できる喜びを感じ、自分のことが自分でできる子に育てていく。

情緒級: 自分の課題に積極的に取り組み、学習で身に付けた力を生活に生かせる子に育てていく

何を学ぶか  
○各教科等の教育課程の編成

○個別の支援計画・指導計画に基づいて  
個々の課題に合わせた指導を行っていく。

どのように学ぶか  
○各教科等の授業の実施

○個別支援学級の年間カリキュラムを作成するにあたって、個に応じた課題に取り組む活動ができるよう、個別支援学級の担任含め支援員全員が、全児童のことを理解しながら対応する。

○国語や算数、理科、社会などの教科は個別学習の時間にそれぞれの指導計画に則って行われる。音楽、図工、体育などの技能教科は児童の実態に応じて、クラス全体や各グループで学習を進め、個々の課題に応じて支援を行っていく。

○スモールステップで学習に取り組む、自分ができたことを理解しながら学習に取り組めるようにしていく。

○児童の実態を考え、全体指導と個別指導とを織り交ぜた学習の体制を取っていく。そして、児童が目標を理解することができるよう課題別の学習を行っていく。

○交流級の活動では、担当が交流級での活動内容を適切に把握し、その時間に児童が安心して取り組めるようにする。

実施するために何が必要か  
○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

○児童の実態をしっかりと捉え、家庭と連携しながら全職員で協力し全ての児童の対応について考え支援する。 ○視覚化 ○個別最適な学び。

○個別の支援計画、指導計画に基づき、個に応じた学習の手立てを担任間で共有、連携し指導を進めて行く。

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

○算数や、生活などを通して様々な教科等が、生活で必要とされていることに気付くことができるようにする。 ○汎用的な資質・能力

【各学年のグランドデザイン】

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 自分の思いや考えをもち、伝える。
- 友達の思いや考えを受け止める。
- 興味・関心をもって、学びに前向きに向かう。
- 心と体を健康にする。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 学習課題に対して、学び方に則り活動する力。(7/20)
- 2～3人の小グループで話し合う力。(7/20)

子ども達の実態

- 学校生活の流れを理解し、さくらっ子ルールを守って生活しようとしている。
- 学習活動への興味をもっている児童が多くなる。
- 思いや考え、経験を表現することにやや課題が見られる。

子ども達の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

- 個々の特性を見取り、特別支援教育の視点を重視した学習環境づくりをする。
- 個々への支援を図り、生活や学習を落ち着いて取り組めるようにする。

目指す子ども達の姿

- 自分から気持ちの良いあいさつを進んでしようとする姿
- 自分のことを自分の力で成し遂げようとする姿
- 友達と一緒に活動することを楽しもうとする姿
- 友達を思いやり、安心して過ごそうとする姿
- 初めて行う活動や学習に挑戦しようとする姿
- ひと・もの・ことに興味をもち、「やってみよう」とする姿
- 自分の心と体を見つめ、伝えようとする姿

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 各教科で育む資質・能力の明確化
- 各教科の基礎・基本の徹底
- 各教科・各単元の目指す姿を明確にした学習活動の充実
- 特別活動（6年生とのなかよし活動）の充実

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善
- 国語科の読む・書く経験の積み重ね、算数科の足し算・引き算の演習量の充実。
- 各単元の目指す姿を明確に提示し、子どもがゴールを意識した学習活動の充実
- 学校生活全般の「めあて→振り返る」の反復活動

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 学年研での情報交換…学習内容の確認をしたり、教材を分担して準備したりし、学年での学びの充実を図る。
- 毎週の学級通信…学びの様子や学習内容について知らせる。
- 地域とのつながりづくり…地域や外部の人材を生かした教育活動に取り組む。 ○Y-P アセスメントの活用

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 安心して学校生活を楽しむことができる環境づくり
- 発達段階や個々の特性に応じた学習環境の調整
- 汎用的な資質・能力
- 地域について知り、地域とつながり、関わるができる学習や活動の充実
- 体験的活動の重視

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 各教科における基礎・基本を身に付ける。
- 主体的に学習したり、自分で考えて学んだり、行動したりする態度を身につける。
- 友達や地域の人々とのかかわりから学び合う喜びをもつ。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 友達とのかかわり合いを大切にしながら学ぶ力。(7/20)
- 分かるようになりたい、できるようになりたいという、意欲的に学習に取り組む力。(7/20)

子ども達の実態

- 学校に対して慣れてきて、安心して生活することができている。
- 失敗を恐れて挑戦ができない。
- 素直に考えたり行動したりすることができる。

子ども達の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

- 学年でチームを組み、指導に当たる。
- 児童理解を深め、一人ひとりに合った支援をする。

目指す子ども達の姿

- 主体的に学習する姿
- 自分の力を発揮する姿
- 新しいことに挑戦する姿
- 自分や友達のよさを見付けたり、友達と繋がったりしようとする姿

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 既習を生かして学ぶ。
- 一年間の学習の見通しをもち、校外学習や体験学習、出前授業を単元に関連付けて設定し、教科横断的な学習計画を立てる。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- PDCA サイクルを通して、指導と評価の一体化を図る。
- 問題解決的な学習を取り入れる。
- 互いの考えを認め合える場面を学習活動の中に取り入れる。

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 学年で情報交換を行い、学習進度や指導の仕方などを確認しながら進めていく。
- 単元によって家庭や地域と連携し、協力を仰ぎながら進めていく。
- クラス単位だけでなく、同学年や異学年とのかかわりを取り入れながら進め、共感してもらう活動を通して自己有用感を高める。

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 単元によっては、教科どうして横断的にとらえ、それぞれで学んだことを生かしながら進めていく。
- 汎用的な資質・能力
- 体験的活動の重視
- 発達段階や個々の特性に応じた学習環境の調整をしていく。
- 安心して学習できるような環境づくりをし、自分の考えを自分の言葉で話せるようにしていく。

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質○能力

- 各教科における基礎・基本を身に付けることができる。
- 身に付けた知識や技能、生活経験を活かしながら、主体的に学習したり、自分で考えて学んだり、行動したりする態度を身に付けることができる。
- 友達や地域の人々とよりよく関わり、学び合うことができる。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 基礎・基本を身に付けつつ、前年度までの経験や学びをもとに新しい学習に取り組むことができた。(7/20)

子ども達の実態

- やる事が分ると、安心して取り組むことができる。
- 学習への興味がある児童が多く、新しく使う器具や学習することへの興味が強い。
- 学校のルールを守って行動したり、相手の気持ちを考えて行動したりすることが難しい。

子ども達の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

- 個々の課題や困り感を把握し、それらに合わせた支援を行う。
- 学習に集中できるような教室環境を整える。
- 学習や行事などの見通しをもつことができるよう、視覚的なアプローチも取り入れながら情報を提示する。

目指す子ども達の姿

- 見通しをもち、進んで活動に取り組む姿。
- 自分の思いや考えをもって、粘り強く学習や課題に取り組む姿。
- 相手意識をもって、友達とよりよい関係を築こうとする姿。

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- これまでの学習や経験をもとに、自分の思いや考えをもち、自分の言葉で相手に伝えること
- 相手の立場に立って気持ちを考えながらよりよく友達とつながること

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- どの児童にとってもわかりやすく、1時間の中で「学んだ実感」がもてる授業づくり
- 個に寄り添った支援の充実
- 安心して自分の思いや考えを伝えられる学習環境

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 学年研の充実…積極的に学年で情報交換を行い、学習進度や指導の仕方などを確認しながら進めて、学年で子ども達を育てていく。
- 学年だよりの活用…学校での様子の発信を通して、家庭や地域と連携して教育活動の充実を図る。
- 色々な相手との関わり…クラス単位だけでなく、同学年や異学年と関わる機会を通して、相手意識や自己有用感を高める。
- Y-P アセスメントの有効活用

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 総合的な学習を軸に教科横断的な学習活動を設定し、学んだことがつながる実感をもてるようにする。
- 発達段階や個々の特性に応じた学習環境の調整をしていく。
- 安心して思いや考えを伝え合ったり、受け止めたりすることができる集団づくり。
- 体験的活動の重視
- 汎用的な資質・能力

何ができるようになるか  
○各教科等で育成する資質・能力

何が身に付いたか  
○各教科等の学習評価

- 【考える】自分の考えをもち、相手の考えを受け入れることができる。
- 【つなげる】心のこもった挨拶をし、思いやりの気持ちをもつことができる。
- 【挑戦する】失敗を恐れずに、最後まで諦めず物事に取り組むことができる。

- 学習のゴールを明確にし、見通しをもって計画的に活動に取り組んでいる。
- クラウドサービスを活用し、思いや考えを伝え合い、思いを共有している。
- 各行事や実行委員の活動を通して、粘り強く取り組む力や学年で協力する力が高まってきている。(7/20)

**子ども達の実態**  
何事にも意欲的で、自分にできることを実行に移すことができる。友達と何かをやりたいという思いがあるが、自分の言動が相手にどう影響するか考えが不十分な部分もある。相手の気持ちになって関わられるよう指導している。失敗してもよい環境や一人一役の経験から、自信をもたせたい。

子ども達の発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする子どもへの指導

- 一人ひとりを見つめ、心に寄り添う。
- 学年・学校での連携支援

**目指す子ども達の姿**  
【考える】○自分の考えをもつ子  
○相手の考えを受け入れる子  
【つなげる】○心のこもった挨拶をする子  
○相手を思いやる気持ちをもつ子  
【挑戦する】○最後まで諦めず物事に取り組む子  
○失敗を恐れずに何事にも取り組む子

何を学ぶか  
○各教科等の教育課程の編成  
○日頃から相手を受け入れる、認めるような言葉集めをし、温かい言葉に対する意識を高める。  
○朝の時間を活用し、アウトプット力や思考力を高める学習を設定する。  
○休み時間はクラスなどで外遊びする機会を設け、健康や体力に目を向ける。

○個性を肯定的にとらえ、それが発揮できる学習展開や支援を行う。  
○個に寄り添った支援や個別最適な学びの充実を図る。  
○学級や学年など豊かな関わり合いから、互いを認め大切にする思いを育む。  
○学習対象、教材、仲間や教師、自己との対話のある授業づくりを行う。  
○児童の願いや思いの「聞く・つなぐ」を大切に、自信と希望をもたせる。

どのように学ぶか  
○各教科等の授業の実施

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働  
○積極的な情報発信・受信と、家庭に開かれた学年づくり ⇒ 積極的な情報発信と多様な情報の受信→学年便りの内容の充実、保護者との連携の強化  
○学校評価の充実と保護者から信頼される学年づくり⇒学校評価の分析と有効活用 ○学年研で教材研究や児童理解を深める時間を位置づける ○YPの有効活用

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成  
○地域の方との交流学习の推進 ○思いやりの心を育む道徳・人権教育 ○安心して自分を発揮でき、互いを認め合える集団づくり ○汎用的な資質・能力  
○発達段階に応じた学習環境整備、可能性を伸ばす教育 ○自分の命は自分で守る習慣と態度の育成（食育、登校班、交通安全、危機対応）○体験的活動の重視

何ができるようになるか  
○各教科等で育成する資質・能力

- 新たな知識とすでに備わっている知識を関連付けながら、学習を定着させることができる。
- すでに備わっている知識や技能の活用の仕方を考えることができる。
- 粘り強く最後までやり遂げることができる。

何が身に付いたか  
○各教科等の学習評価

- すでに備わっている知識を活用し、自分なりに考え、友達と意見交流をすることで、新たな知識と関連させ、まとめながら学びを深めてきている。(7/20)
- 教師の支援を受けながら、集中力を持続し、途中であきらめることなく粘り強く課題解決に取り組もうとしている。(7/20)

**子ども達の実態**

- 新しいことに挑戦したいという気持ちは強いが、最後までやり遂げられない。
- 学習の定着に時間がかかり、個人差が大きい。
- 高学年として、低学年の手本になりたい気持ちがある。

子ども達の発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする子どもへの指導

- 教科担任制を活用し、個々の課題や困り感を把握することで子どもに合わせた場所や時間の確保等の支援を行う。
- 最後（ゴール）のイメージを明確に示すこと。

**目指す子ども達の姿**

- 最後までやり遂げることができる。
- 基礎基本が身に付いている。
- 相手のことを考え、その場にあった言動を考えることができる。

何を学ぶか  
○各教科等の教育課程の編成

- 一年間の学習の見直しをもち、校外学習や体験学習、出前授業を単元に関連付けて設定し、教科横断的な学習計画を立てる。
- 3年生とのなかよし活動（特別活動）の充実を図る。

どのように学ぶか  
○各教科等の授業の実施

- 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善をする。
- PDCA サイクルを通して、指導と評価の一体化を図る。
- 互いの考えや取組を認め合える場面を学習活動の中に取り入れる。

実施するために何が必要か  
○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 校内研修を充実させる。（主体的・対話的で深い学び、学習評価、児童理解）
- 担任、専科、児童専任がチームとして情報共有を積極的に行い連携し、指導を行う。
- 保護者、教師が連携して取り組む。 ○Y-P アセスメントの活用

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 自分の考えをもち、相手に分かりやすく伝える力の育成。 ○汎用的な資質・能力 ○体験的活動の重視
- 自ら課題をもち、その課題を解決する力の育成。

何ができるようになるか  
○各教科等で育成する資質・能力

何が身に付いたか  
○各教科等の学習評価

- 見つけた課題について見通しをもって解決することができる。
- 互いの考えを伝え合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできる。
- 学習を振り返り、活動や学び方を改善していくことができる。

- 見つけた課題について見通しをもって解決する力が身につく。
- 互いの考えを伝え合い、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
- 意図的に学習を振り返る活動を通して、自分の学び方を改善していこうとする姿が見られる。

子ども達の実態

- 素直に物事を考えることができる。
- 学年で力を合わせて取り組むことができる。
- 目的に応じた表現力にやや課題が見られる。

子ども達の発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする子どもへの指導

- 教科担任制を活用して、円滑に子どもの情報共有を行い、共働で支援を行う。

目指す子ども達の姿

- 学年目標「無限」を意識し、どの活動でも、目指す6年生の姿を大切にしながら取り組む。
- 友達との学び合いの中で、自分の思いや考えを深め、最後まで粘り強く取り組む姿を目指していく。

何を学ぶか  
○各教科等の教育課程の編成

- 各教科等で育む資質・能力の明確化
- 教科等横断的な学習の取組
- 探究学習（各教科等）の充実
- 特別活動（1年生とのなかよし活動）の充実

どのように学ぶか  
○各教科等の授業の実施

- 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善をしていく。
- 教科等横断型の学びの充実を図る。
- 「見通す・振り返る」活動を充実させる。
- 一部教科担任制で学習を進め、学年で子どもたちを育成する。

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 担任がチームとなって情報を交換し、連携をして指導を行う。
- 地域と連携した活動を行う（交易食品、スパイシーモンキーズ等）
- 校内研修の充実（新学習指導要領、主体的・対話的で深い学び、学習評価）
- 保護者、教師が連携して取り組む。
- Y-P アセスメントの活用

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 自分の考えを発信し実現することの楽しさや、考えを伝え合うことで自らの考えが広がったり深まったりすることを実感できるよう活動を工夫していく。
- 各教科等で育む資質・能力を明確にし、カリキュラム・マネジメントを行う。
- 汎用的な資質・能力 ○体験的活動の重視